

## 第2回滝沢市総合計画審議会会議録

(平成29年10月24日(火)開催10:00~12:00)

### ・(司会)事務局

本日はお忙しい中、ご出席ありがとうございます。

ただいまから第2回滝沢市総合計画審議会を開催いたします。

本日の出席委員は、25人中16人であり、過半数を満たしておりますので、滝沢市総合計画審議会条例第5条第2項の規定により、会議が成立することをご報告します。

次に、次第2の委嘱状交付でございます。滝沢市農業委員会 前会長の 齊藤 實 様が任期満了により退任されたことにとまなましまして、新たに会長へ就任されました 齊藤 新一 様に委員をお願いすることになりましたので、市長より委嘱状を交付いたします。齊藤 新一 様は前の方へお願いします。

(委嘱状交付)

また、盛岡大学地域連携センター 所長の 市川 洋子 様が退職され、新たに 松前 もゆる 様が着任されました。本日は、あいにく、ご都合により欠席されていますので、後日、事務局より委嘱状をお渡しする予定でございます。

ここで審議会の開会にあたり、滝沢市長 柳村 典秀よりご挨拶を申し上げます。

### ・(挨拶)市長

おはようございます。昨日は非常に激しい風を伴う台風により、農作物に影響があったのではないかと想定されるところであります。今日は台風一過ということで天気が良いです。皆様には大変お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

本審議会は、滝沢市自治基本条例に則って行われる会議であり、本日議題となっていることについても、明記されています。滝沢市で様々な行政政策等を行っている中でも、最も重要な審議会であると思っております。

さて、平成26年1月から、滝沢は人口日本一の村から住民自治日本一を目指す市へと移行いたしました。この際、私たちが考えたことは、これからの時代どうやって生き残るのかということでございました。平成17年に平成の大合併がありましたが、合併を選ばず、単独で生き残ることを目指して市になりました。市民の中には、市になればすぐ発展するのではという期待があったかと思いますが、4年経過して、そこまで大きく変わるものではないと考えています。お金が湯水のごとく使えるものではないので、住民が主体となった行政運営をしていかないといけないです。

私たちは、この総合計画を作る際、内閣府で昭和47年から調査し、昭和54年に、モノの豊かさよりも心の豊かさを重視しているという結果になったことを踏まえております。市における、幸福を構成する要素としては、健康・人とのつながり・所得収入の3つの要素が大きいということでしたが、これらを踏まえ、滝沢市の総合計画のキーワードとして、「幸福感を育む」というものに決めさせていただきました。この「幸福感」は、しだいに他の自治体でも注目するようになり、今回の県の総合計画においても使うことになりました。健康と、家族や友人等とのつながりである人とのつながりを重点事業にして政策を進めていこうということが、総合計画の根底にあるもので、そのことを理解してもらうことに力を入れなくてはならないと思っております。

現在、生涯学習計画を進めており、人とのつながり部門に繋がるものではないかと思っています。また、健康づくり宣言を来年行う予定で進めていますが、皆さんが何かチャレンジしようという気持ちになってもらえるような運動を展開したいと思っています。そして、7月1日の岩手山山開きに合わせ健康づくり宣言を行い、山頂でセレモニーを行えたらと思っています。来年は日曜日でもあるので、ぜひ登ってほしいです。まだ時間があるので、今から訓練をすれば間に合います。

結びになりますが、平成30年で前期の計画が終了し、次期の部分を作らなくてはならない時期となり、忌憚のないご意見をいただきながら進めたいと思っていますので、よろしくお願いします。

#### ・(司会) 事務局

次第にはございませんが、本日出席しております職員をご紹介します。

(職員紹介)

ここで、本日の日程を説明いたします。

本日の議事につきましては、(1)平成28年度滝沢市地域社会報告書について、(2)平成28年度市長方針及び各政策方針評価について、となっております。

全体の会議の終了時間は、12時00分を予定しております。時間の許す限り活発な議論をお願いしたいと思います。

それでは、会長、議事進行をお願いします。

#### ・(進行) 会長

おはようございます。少しでも市政が良くなるように、いつものように、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

それでは、議事に入ります。議事1 平成28年度滝沢市地域社会報告書について 事務局より説明をお願いします。

#### ○事務局説明

#### ・(進行) 会長

ありがとうございました。何かご感想、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

#### ・(質問) 会長

総合計画が認知されない理由は何なのでしょう。

#### ・(回答) 事務局

総合計画の認知の上昇については、これまでも取り組んでいるところでございます。例えば、平成28年度からは、少し新しい取り組みとして、市役所1階ロビーのテレビにちゃぐぽんを映し、ちゃぐぽんが、総合計画というのはこういうもので、皆さんの日常の活動が幸福感を育む環境づくりに繋がっているということについて説明していますが、総合計画を知っていますかという聞き方をしますと、中々数字が上がらない状況です。皆さんの日常が総合計画そのものだということを理解してもらうのが、今後取り組んでいかななくてはならないことだと考えています。

・(質問) 委員

報告書の基準値はどこから取ったものですか。

・(回答) 事務局

総合計画の幸福実感一覧表から取ったものです。市民の皆様に使ってもらったものであり、学術的な根拠はありませんが、平成26年度の市民アンケートから出てきた数値です。

・(意見) 委員

地域社会報告書の表紙にベンチマーカーレポートと書いてありますが、BENCHMARK-REPORT とハイフンを入れた表記の方が良いのではないのでしょうか。

・(回答) 事務局

ありがとうございます。次回からそのように表記します。

・(意見) 委員

総合計画の認知度がやはり一番の課題だと思います。今の状態はデータから言っても良い方だと思いますが、本当に浸透させるためには、もっと上げないといけないです。その際、自治会の活動の影響が大きいと思います。自分たちのことは自分たちでというように、主体的に考える人が増えてこない、認知度は高まらないので、地域のことに興味を持てるように工夫をしていかないといけないです。

・(司会) 会長

自治会の方はどうですか。色々活動する時に話題になることはありますか。

・(意見) 委員

トータルで理解しようとするのは難しいので、普段活動している、あなたの団体はこうですよと説明したり、別な方向ではどうかと広げたりしていくべきではないかと思います。

・(回答) 副市長

この数値は、総合計画という言葉を知っているかという質問によるものです。内部でも整理しながら話していますが、生涯学習がまさに総合計画の実態版です。自らの力を高めていこうというのが総合計画ですから、高まっている力をデータで見れば良いかと思っています。生涯学習をしていますか、健康活動をしていますかと聞けば、数値も上がると思いますので、聞き方の問題ですが、総合計画という言葉の認知度について、行政もPRが必要だと思っています。

・(意見) 委員

自分に該当する部分が総合計画にあるということで認知度を高めていくしかないです。総合計画はこういう計画ですと伝えたくて、あなたはどこかに関わりがないですかという質問にすることで数値も上がると思います。

・(回答) 企画総務部長

今回、総合計画の内容を知っているかということより、その言葉を知っているかということの質問なので、今後のアンケートでは、問い方についても検討します。

・(意見) 委員

言葉を知っているかというのは大したことではなく、中身の方がポイントだと思いますので、よろしくをお願いします。

・(進行) 会長

それでは、次の議事に移ります。議事2 平成28年度市長方針及び各政策方針評価について 事務局より説明をお願いします。

○事務局説明

・(進行) 会長

ありがとうございました。何かご感想、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

・(質問) 委員

健康福祉部で、国や県の社会保障制度改正に向けて対応しているとのことですが、市として、財政的に大きく食い込んでいるのは、どういう部分でしょうか。

・(回答) 健康福祉部長

市の財政に占める医療費や保育園などの扶助費にあたる部分の金額が増加しており、現在は48億円。また、扶助費の内訳中、医療費や子育ての経費の他に、障害者についても伸びています。生活保護については、平成28年度は若干落ち着きましたが、それでも一定程度の額が必要となっています。その他、特別会計として、国保や介護にかかる経費が、それぞれ30億円程度要している状況です。

・(質問) 委員

経済産業部で、馬資源を活用したというのは良いですが、近隣住民から、堆肥をそのまま積み上げていることによる臭いの苦情が多いです。環境の問題と関連していると思います。市として対応はないでしょうか。150～200m先まで臭いがしてきます。近隣の人たちは、臭いで洗濯物を外に干せないと言っているところもあります。指導上どうするのでしょうか。

・(回答) 経済産業部長

馬資源を利用した農産物のブランド化では、チャグチャグ馬コの里滝沢市ということで多方面に発信しています。市内にも馬の管理をしている家が数軒ありますが、馬の維持が大変だということで、その堆肥を使いながら、農産物を買っていただいて、そのお金が、使用している農家さんに落ちれば良いという発想のものです。堆肥の臭いについて以前から伺っているところです。規制が牛や豚と違ってないのが課題ですが、周りの理解がなければ進まないというのもその通りですので、きちんと管理しても

raitai to shiutteimasu. mata, tsunpeika ni tsuite, senman no sensei hata to tsunpaku chuu desu no de, sono kasei ni tsuite wa tsunpaku shi nagara torikumi tai to shiimasu.

• (意見) 委員

昔は何とも思わなくても、今はそういかないので、よろしくお願ひします。

• (質問) 委員

公の施設の使用料減免を廃止するというのが検討されているようですが、どこで公になるのでしょうか。

• (回答) 企画総務部長

公の施設の関係では、減免とコストをどうするかを検討がありますが、今は、減免の方向で進めており、減免団体の要綱をどうするかということです。減免している団体が、減免の内容で使っていればいいのですが、それ以上の解釈の中で使っているところが見られますので、まずはそれを厳密にしようというものです。いつも減免している団体の名を使えば何でも減免できるようになっていたり、減免できるのは部屋だけなのに、備品も減免していたりします。それを厳密にしたいと思います。地域のコミュニティ施設は、地域の活動の中で使うものなので、料金を取らなくて良いですが、スポーツの施設は、選択的な人たちが使うものなので、少しもらおうと思っています。暖房分からもらうのか、割合をどうするか等、スポーツ施設の減免については検討中です。情報の公開は、内部で固まりつつあるので、考え方を整理し、来年の10月くらいにはできればと思っています。

• (意見) 委員

地域からは、減免廃止によって、健康づくり事業が阻害されることのないようにしてほしいという意見が出てきています。健康づくりのために使っていたものが、費用を取るによって使えなくなるのでは、健康づくりが疎かになるのではないかという意見もあることを考慮しながら検討してほしいと思います。

• (回答) 企画総務部長

同じスポーツで施設を使っている、地域の名前を使って減免になっている団体もあり、払っているところと払っていないところの問題があります。また、コストの面では、施設運営のコストは5%くらいしか入っておらず、あとは全て税金であり、このまま運営していけるのかという話もありますので、ある程度の料金は、使う時に払ってもらいましょうということです。地域として、健康づくりのため、年に数回使っているのは減免を考えてもいいと思いますが、毎週のスポーツはどうするか、地域とも話し合いをしていかななくてはいけないと思います。稼働率を上げて歳入を取れるように調整していきます。

• (質問) 委員

ビッググループはどうなのでしょう。

・(回答) 地域づくり推進課長

減免は考えておらず、これまで通り利用料をちょうだいします。

・(質問) 委員

たきざわキッチンには、当初メニューや値段について厳しい意見も多かったと思いますが、今後はどうしていくのでしょうか。また、NPO 団体やボランティア団体等、各団体の紹介チラシを置いていますが、市民の交流拠点施設として、もっと有効に紹介してほしいと思います。

・(回答) 地域づくり推進課長

レストランについてですが、メニューの種類が少ない等ご意見をいただいていますので、課題として捉え、新メニューの開発を考えています。また、今度国のアドバイザーを呼び、部会を開きながら、今後のことを考えようとしているところです。

そして、滝サポと呼んでいる、市民活動支援センターの充実についてですが、中間支援といわれる NPO はなく、そのような機能の力を付けていかななくてはいけないと思っています。どう動かしていくか、指定管理者の方からも、登録団体さんに呼びかけながら、報告が上がっています。登録をしている皆さんとの情報交換を行いながら、進めていきたいと思っています。

・(質問) 委員

健康づくり宣言の話をよく聞きますが、ただ宣言するだけなのでしょうか。宣言してどうなるのか、将来的なことも含めて説明してほしいです。行先はどこなのか、具体的な、住民運動をするならどうするのか等、お願いします。

・(回答) 市長

各団体にこれから具体的に説明をする予定です。趣旨に賛同していただければ、企業も含め、各団体名を公にし、市制移行の時のように、チラシやのぼり旗を街頭に出しながら運動していきたいと思っています。趣旨に賛同していただいたところには、何かチャレンジする目標を掲げてほしいです。職員でも、健康な状態の人が少ないことを解消しなくてはいけないと思っていますので、1月に職員の検診がありますが、正月明けだから仕方がないと言ってられず、岩手山に登るなどの運動をして、職員から率先して健康になっていこうと話しています。最終的には、個人が健康に関心を持ってもらうことが目的です。企業にも賛同してもらいながら宣言をすることによって、取組みを始めるきっかけになればと思っています。

・(意見) 委員

宣言するのであれば、3つくらいはこれだというものを示した方が分かりやすいのではないのでしょうか。最低限何を行うのかというものがあって良いです。市長が話したように、まずは市役所職員の動きがあってから、市民にも伝えるのが分かりやすいと思います。

・(回答) 市長

先ほどの話は私の考えなので、担当部長から具体的に説明させていただきます。また、職員に関して

は、衛生安全委員会で取り上げることとしています。

・(回答) 健康福祉部長

健康づくり宣言は、健常な人がさらに健康になるだけではなく、市民一人一人が対象です。例えば高齢者であれば、現状を維持し、自分らしく、良いと思える生活を送れる状態です。市長の想いは毎週のように聞かされており、瘦せる思いをしております。職員の取組みは、宣言していく以上大事なことになりますので、安全衛生委員会の中で話をしております。具体的な例を挙げますと、健康づくりは幸せづくりということで、スモールチャレンジを行うことを進めています。ストイックに体を作ろうというのではなく、海外旅行をしたいというような自分の夢や希望に向けて何をするのか、今の状態を良くするために何をするのか等、一人ひとりが自分の行動として何をするか宣言してもらうものです。宣言の中核には、やるべきこととして行政施策的な部分も入ってきますが、行政施策を並べるよりも、スモールチャレンジとし、個人の目標にした方が守られるのではないかと思います。

・(意見) 委員

県の方でも、登録して、うちの会社はこういうことをやっていますと紹介するものがあると思います。

・(回答) 企画総務部長

健康経営というもので、事業所としての、働き方、休み方、スポーツ、食等、いくつかのカテゴリーで健康に取り組むという形を他の企業さんも行っていますので、市も健康づくり宣言と併せて今回スタートしようとしています。企業さんはもっと早く、県の取組みの中で行っているのかと思います。

・(意見) 委員

県の項目を参考にすると良いかもしれないです。

・(意見) 委員

農業に関して、農地の放棄が多く見えますが、農道の整備がかなり遅れていることが課題だと思えます。多面的事業として、市では8つの保全組合が活動していると思えますが、滝沢市の道路も結構はまっています。土地改良区の農免道路かと思っていたところ、市の道路も結構ありまして、予算が入ってきて5年間の事業で活動していると聞いていますが、市でも事業展開していく中で、協力体制を整えてほしいです。

・(回答) 経済産業部長

先日農地パトロールを実施しまして、その報告会を行いました。山間部や北の方で多かったと聞いています。その中で、前回の3倍という話もあります。その要因について、後継者がいないのか、土地が悪いのかという分析をしながら、調べていかなければいけないと思っています。市には、農水省で行った農面道路はないかと記憶しています。農道整備や林道整備は取り組んできましたが、最近では整備していない状況です。小作放棄地を少なくするために、課題を探りながら、取り組んでいきます。

・(意見) 委員

いきいきサロンの手伝いをしていますが、月に1回公民館まで歩くのも、健康のために良いと思っています。また、食育の方では、赤・緑・黄の3色の栄養を取り入れた食事を薄味で提供しています。そのようなものも健康づくりとして良いと思います。歩くだけでなく、年代の健康を考えて、集まって悩みも話せるような環境づくりというのも大切だと思います。

・(回答) 健康福祉部長

自治会の集まりで、宣言の本格的指導に向けての準備作業を進めています。一人一人が少しでも行動を考えることを目指していますので、市民みんなで取り組んでいける活動になればと思います。

・(意見) 委員

国際交流協会が発足し、11月5日に国際交流フェスティバルを行います。今日の文書には、国際交流の言葉がないようですが、今後色々な形でご支援いただけるような方向になればと思います。

・(回答) 教育次長

教育委員会としましても、一緒に進めていきたいと思っています。今回は、平成28年度の評価ということで記載はありませんでしたが、今後は様々な取組みとして載せていきたいと思っています。

・(質問) 委員

市長方針の評価は、どこの部門がこのような書き方をしたのでしょうか。どこが優先配分なのか分かりづらいです。市民の目線で、27年度と28年度の比較をすることがあったとしてほしいです。

・(回答) 企画総務部長

市長方針を踏まえて各部門の計画を練っていますので、トータルで書けばこうなるというものですが、その内容を各部門の評価にちりばめています。

・(回答) 市長

最初に話したように、これまで赤字でずっと来ていました。どうやって黒字にするか考えた時、財源を削らなくてはいけないですが、最低限のセーフティネットは維持しなくてはいけないです。重点としている事業にどのように資源を配分していくかも問題となり、お金だけでなく人の配分も含めていますので、一部達成したという表現になっていますが、数値的に前年度と比較するのに意味があるのかということになります。予算を削らないといけない部分が多々ありますが、予算を削った場合は、比較の意味がないものになります。市長方針に基づいて、各分野がどうしたのかが、先ほど説明したとおりです。これ以上の、どういう資料を出せば良いのかは、もう少し検討させてもらいたいと思います。

・(意見) 委員

市長方針の評価の中で、行政改革の推進があり、それはその通り行わなくてはいけないと思いますが、その内、事務事業の実施については、前例踏襲あるいは固定観念を排除し、財源の削減を図るとされています。それも良いと思いますが、この状況の中で、前例の踏襲ではない財源確保の事業展開を考えて



ほしいと思います。

・(回答) 市長

民間でできるものは民間にお願いし、スリム化を図って、削減を測る方法もあるのではと思っています。事務事業を見直して各種団体と効率良く行っていくことを進めていかないといけないと思っており、委員のおっしゃる通りだと思います。

・(意見) 委員

市はその部分が遅れていると思いますので、積極的に、まずは官と民でもっと具体的な事業展開をしたほうが効果的だと思います。

・(回答) 副市長

前例踏襲・固定観念についてのご意見は、時代の変化に合わせ、市民のことを考えて工夫するところは工夫する、良いものはそのまま引き継ぎ、変えるべきところは変えるというのが市長方針で書かれています。それが見えていないというご指摘をいただいたものと思って努力していきたいと思っています。

・(意見) 委員

ビッグルーフや元気館など、とても良いものを作ってもらったと思っていますが、お山の湯がなくなったのは残念です。トイレの補助の問題は教科書にも載っているようで、非常に良いことをやっているのだから、明るい方向を見て、自信を持ってほしいと思います。

・(進行) 会長

それでは、時間も迫ってきましたので、事務局へ進行をお返ししたいと思います。よろしく申し上げます。

・(司会) 事務局

会長、ありがとうございました。

次回の会議は2月を予定しております。詳細が決まり次第、ご連絡をいたしますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして第2回滝沢市総合計画審議会を閉会いたします。